

学生の外国語能力向上に関する取組等

【公共政策大学院】

公共政策学大学院では、公共政策に関する研究や実務に携わるうえで必要となる外国語能力を備え、かつそれを将来の職業活動等において活かしていこうとする実践的な姿勢をもった学生を育成する。そのため、以下のような取組を通じて、学生の外国語能力および外国語学習の意欲の向上を図っていく。

外国語能力の到達目標

公共政策に関連する職業や社会領域はきわめて多様であり、そこで求められる外国語能力の性質や水準も一様ではない。そのため本大学院では、全ての学生に対して一律の基準で外国語能力の到達目標を設定することはせず、むしろ少人数教育のメリットを活かし、各々の学生が希望する職種において必要となる実践的な外国語能力を修得できるよう、教員がきめ細かな助言と指導を行う。

外国語能力を向上させるために実施する取組

本大学院では従来から、授業やセミナーに外国人講師を招聘し、また外国からの訪問団を積極的に受け入れるなど、学生が外国語能力を実践的に使用する機会をおよそ半期に2回以上は提供してきた。例えば、平成30年度後期は国際政治経済事例研究という授業の講師としてBBC 香港で活躍するジャーナリスト、ヴィヴィアン・ウー氏、令和元年度前期は駐日欧州特命全権大使パトリシア・フロア閣下をゲストにお招きして英語での講演および質疑応答を行った。フロア大使による授業の様子は文部科学省のスーパーグローバル大学創成支援事業のウェブサイトでも紹介された。

こうした外国人ゲストスピーカーに加え、他国・他大学からの外国人学生訪問団も定期的に受け入れている。平成31年3月には日本政府の実施するカケハシ・プロジェクトの一環として来日したアメリカのブラック・コーカス・リーダーズという政治家や官僚等をめざす若手実務家約20名を受け入れ、本学学生による英語でのプレゼンテーションの後、学生とのグループディスカッションを実施した。こうした機会は、学生が外国語学習の必要性を理解し、外国語能力の修得に向けた意欲を高めるうえで非常に重要であるため、これらの取組みのさらなる拡充を図っていく。

また、本大学院の学生が外国語能力を向上させるうえで大きな役割を果たしている留学プログラムについても、今後さらに留学先やプログラム内容の充実に取り組んでいく。例えば、従来より実施しているパリ・アイルランド・マケドニア・南アジア・台湾への留学・研修プログラムに加えて、令和元年度からは韓国への研修プログラムをスタートさせる。

学生の国際性を涵養できた実例

実例 1

学生 A は、大学院 1 年次の秋に公共政策大学院が独自に実施する台湾派遣プログラム（ナルワン・プログラム）に参加し、台湾の政府機関や政党本部、外交国際事務学院等で実際に公共政策の現場の最前線で働く人びとへのインタビューを実施した他、台北市や台中市の博物館等の見学、現地協定校等の学生たちへのプレゼンテーションやディスカッションを通じて異文化への理解を深め、国際競争力を磨く機会をもった。また、日本と台湾の公共政策の違いを学んだことが、改めて日本の公共政策の在り方を見つめなおす機会となり、学生 A が現在勤務する官公庁を志すきっかけとなった。今後は海外勤務もあるため、本大学院で得た異文化理解力を生かして国境を越えた公共政策課題に取り組んでいく予定である。

実例 2

学生 B は大学院入学前の 2 月に、入学内定者としてコミュニティ・ディベロップメントプログラム（インド研修プログラム）に参加した。インドへ派遣された 2 週間の中に農村やスラムでの聞き取り調査を実施し、異なる文化背景を持った人々と対話し、行動に繋げてもらうための手法を学んだ。大学院入学後は、英語実務演習において、実務経験を持った教員の指導のもと、国連制裁パネルの文書などを輪読し実践的な外国語能力を養った。また在学中も 2 つの国際フェロープログラムに参加している。ナルワン・プログラムでは、台湾の政治と少数民族の現状を学ぶとともに、状況を正確に理解・分析するには現地に赴き、その状況を実際に目の当たりにするフィールドワークの重要性を理解した。次に参加したアイルランド国立大学ダブリン校での 10 週間にわたる上級英語学習プログラム（シャムロック・プログラム）では、学術英語を学びつつ各地に足を運び、アイルランドの国民意識、北アイルランド紛争、イギリスの EU 離脱といった問題について理解を深めた。学生 B は、本大学院が提供するこれらの留学・研修プログラムへの参加を通じて、国際問題や社会問題への関心が高まったことからジャーナリストの道を志し、卒業後は新聞社に勤務することが決まっている。卒業後も外国語能力を活かしつつ世界と地域をつなぐ活動に取り組みたいと考えている。